

岩原地区内の皆様、そして地区外・町外・県外にお住まいの皆様

岩原区長 森下広文

岩原地区(岩原・三谷・筏木)のみなさん、そして岩原地区出身者のみなさん
こんにちハ。皆さんにはお元気でお暮しのことと存じます。

さて、このたび岩原地区公民館では繋がりを保つことを目的に皆さんがお生まれになり、育ったふるさと・岩原地区の行事や活動など地区の情報を皆さんにお届けする『公民館便り』を発行する運びになりました。私としてもこの取り組みを応援しています。

かつて皆さんがお暮しになった往時のふるさとに思いを馳せながらご覧になっていただければと思います。そしてこの『公民館便り』を通して皆さんと岩原地区の繋がりがより強く大きく育っていくことを期待しています。

三谷区長 下村忠義

昔の一人旅

ポーと汽笛が鳴った。ごとごとと動き出した。夕方6時頃寝屋川の家を出て、大坂の梅田駅を汽車が出発したので有る。暑い。8月の初旬の夕方である。ゴトンゴトンとレールの継ぎ目の音がする。夕日が当たって暑く、窓を少し明るくなるように開けた。余り開けると煙が入って来る。1時間ほど走って止まった。神戸駅で有る。今の時代では考えられない事である。今を溯ること60年程前の事、昭和27年8月の事。現在の新幹線で走れば岡山駅付近まで来ると思う。気の長い話しである。明石、加古川、姫路、相生、和気、やっと岡山駅へ着いた。乗り換えである。

四国方面乗り換え一。宇野線へ乗り換えて宇野港へ着く。ところが大変である。船着場迄100m程ある。早く行かねば連絡船で座る場所が無い。大勢の人が競争だ。やっと船に乗って座った。家を出て6時間余りに成る。腹がへって来た。連絡船の中で売って居るうどんを食べようと長い行列を並んでやっと食べた。評判通りおいしかった。夜中の12時過ぎである。1時間半程して高松港に着いた。ここも同じく競争である。早く行かんと汽車で座れない。乗客の皆が船の下、船口へ集まる。船が少し傾く。船内放送で片側へ集まらないようにと言う。汽車まで走った。機関車の後ろ2両が高知方面行き、あとの2両が松山方面行き。やっと座った。車両の中は満員だ。多度津で2両切り離し、30分ほど休憩、松山方面から来た1両を連結して発車した。しばらくは良かったが汽車が山を登り始めると窓を閉めなければならぬ。トンネルだ。窓を閉めても煤煙が入って来る。ハンカチで口と鼻をふさぐ。目が痛い。池田駅へ来てやっと落ち着く。徳島線との連絡で1時間ほど休憩。機関車へ水も入れたり徳島から来た車両2両を増結して出発した。その間に弁当を買って食べた。又、トンネルの連続、煙が入ってくる。大歩危付近に来た時、車掌が検札に来た。切符の角にパンチでパチンと切込みを入れた。もう15分ほどしたら岩原へ着くと教えてくれた。

外が明るくなって景色が見えた。トイレに行ったり顔を洗ったりして、びっくりした。顔をふいたハンカチやカッターシャツの首を見て黒く、ウワーと思った。間もなく岩

岩原老人クラブ円和会 会長 下村堯基

公民館活動が生まれたのは多分戦後のことで、昭和30年代には各集落に公民館制度が波及し、古い因習やしきたりの打破、虚礼廃止等に大きな成果を上げていたことは申すまでもない。

この公民館活動から発展したのが、農業研究グループや生活改善グループであり、これらは必然的に更に発展し、稲作部門、野菜部門となり、生活改善グループは住居の改善、食生活改善へと大きな成果を残している。

これらの事を考える時、公民館活動がいかにその時代その時代に重要な役割を果たして来たかが、伺い知れる。

今日程情報が氾濫し、飽食の時代、過疎高齢化の時代だと言われる現在、ともすれば公民館活動の場を見出すことは至難であろうと考えていた処、



岩原駅前美化活動(花壇にお花を植えました)

報発刊の話聞き大変心強く思っている次第です。この活動から新しい提案や発想が生まれて来ることを大いに期待するものがあります。

我が老人クラブ円和会も発足40余年30数名の会員が相互の親睦や健康管理、地域でのボランティア活動等で力の限り頑張らせて戴いています。

此の機に老人クラブの活動にも御理解御協力を宜しくお願いいたします。

緑栄三和会 会長 下村芳章



支障木の伐採事業

ので、皆様方のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

緑栄三和会は過疎と高齢化が進む厳しい現状の中にあって、地域住民自らが現状を打破して、活力ある地域作りのために協働で地域的な取り組み活動を行うことにより、良好な地域社会を維持する目的の一つとして、町道の清掃及び支障木の伐採事業を行い、地域内の環境整備に取り組んでおります。

今後も地域活性化のためにイベントの協力や地域間交流、講演会の開催伝統文化の継承保存等に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

原駅へ着いた。駅員が土佐岩原、土佐岩原と言っていた。やれやれやっと着いた。子供の頃帰ってから6年目である。この土地を知らない。駅の前へ出た。ここで下車したのは2人だけであった。その人は私を見て(上から下まで)じろじろ見ていたが、いつの間にか見えなくなった。おじさんの人だった。此の当たりでは見たことのない人だと思った風だった。無理もない。黒い学生帽子に白いカッターシャツ、黒いズボンに黒い革靴。底には金を打って有る。歩くとカツカツと音がする。手には映画のフウテンの「トラ」さんのような茶色のトランクを持って居る。このような格好の人は、この当りには居なかったと思う。下の川を見た。水が青い。川底が見える。美しい景色だ。青い水を見てしばらくボーとして居た。が、ふと我に返った。どっちに行ったら自分の生れた家の方へ行けるのか、急に不安になって来た。(続きはこの次です。)

筏木区長 笥豊広

筏木では氏堂が再建されて30年たちました。住む顔ぶれは変わりませんが少し少なくなりました。みんな元気でやっています。年に2回の一斉清掃には皆んなで一斉懸命きれいにしています。



大豊町消防団 東部分団岩原部 部長 下村裕国

日頃防災、そして消防活動にご理解を頂きありがとうございます。幸いここしばらくは火事ありません。しかし、3月11日の東日本大震災のごとく、南海・東南海大地震がまじかに迫ってきていると言われていています。震災には備え過ぎるということはありません。日頃からの意識づくりをよろしく願います。また、消防団では「住宅用火災警報器」の設置をお願いしています。ご存知のようにこれは法律で各戸に1個以上の設置が義務付けられています。火災の早期発見に大変有効となっていますのでよろしくお願いします。

岩原地区公民館 館長 三島誠二

今年度より岩原地区公民館館長を仰せつかりました。よろしくお願いします。さて、この岩原地区(岩原・三谷・筏木)にはどれほど昔から人が住んでいたことでしょうか。どのような人が住んでおられたのでしょうか。千年前の平安時代にもこの土地はあり、人は住んでいたのでしょうか。私たちはこの美しいふるさとと暖かい人の輪をいつまでも残していきたいですね。今年度より『公民館便り』を発刊することにしました。この岩原地区にはたくさんの行事もあります。それをお伝えできればと思っています。地区内の皆様には各家々に配布しますし、町外、県外の方々にも郵送いたします。また、今後には写真や動画をDVDに書き込んで配布・郵送する予定です。ホームページも検討していますのでご期待ください。

TEL : 0887-75-0740
携帯 : 090-4977-9004
メールアドレス : otoyoy.mishima@mopera.net